

論文審査（博士）結果の要旨

学位申請者氏名	オボス・コチョレ・エティエン	学籍番号	190501
審査委員	主査 教授 榊原 巖 副査 教授 李 宜融 副査 教授 小俣 義明		
学位論文題目	天然物の HIV-1 逆転写酵素に対する阻害効果の研究 <u><i>Cymbopogon nardus</i> 及び Manuka honey に関して</u>		
論文審査の要旨			
<p>学位論文審査報告会での質疑応答において、副査兩名の先生の質問に対し、明確かつ的確な返答が出来なかった点は、評価を厳しくせざるを得ない。しかしながら、本研究の本来の目的である、HIV で苦しむ現地、アフリカ・ベナン共和国の人々に対し、有益な医療情報を提供するという点では、意義が大きい。本研究は、新薬開発を目指すのではなく、現地で伝統的に使用されている薬草、<i>C.nardus</i> の有効性を検証することであり、今回得られたデータは、大多数の一般階級の人々はその恩恵を受けることが出来ることを示唆している。研究プロセスに関しては、論理的かつ合理的に進めており、評価に値する。逆転写酵素における Wild タイプと臨床タイプの作用の違いを、MOE を使った結合部位の 3 次元構造の差違として表現している点は斬新である。第二テーマであるマヌカハニーと、<i>C.nardus</i> のテーマの関連性についての的確に回答できなかつた点は、残念である。マヌカハニーは従来から抗ウイルス作用があることが知られていたが、そのメカニズムが明確でなかつたため、今回の <i>C.nardus</i> の手法を試みた。その結果、作用メカニズムおよび活性成分が解明できたことで、本手法の有用性と妥当性が証明できた。このように回答すべきであった。今回の 2 つのテーマのうち、第 1 テーマの <i>C.nardus</i> に関しては第 2 著者、マヌカハニーは第 1 著者として、欧米誌（査読付き）に投稿しており要件を満たしている。これらを総合的に判断して、本研究は博士号に値すると思料する。</p>			